

吉田賢輔 けんぼう 洋學者、儒者。天保八年九月十一日江戶生れ、明治二十六年十月十九日歿（八七—九三）。諱彦信、幼名定吉。號竹里、また下谷重夫と号す。少時田邊石庵に學ぶ、昌平坂學問所に入りて古賀茶溪ちんせきに師事、漢學を修む其書に親しんだ。安政七年蕃書調所書物方出役、尋ついでに總譯筆記方出役。文久二年外國奉行支配書物方出役、更に支配調役並出役となる。慶應三年儒者勤方、明治二年一橋藩儒兼洋學教授職に就き、傍ら『西洋旅業内外篇』を著述出版。翌年尺振八、乙帯太郎乙（華陽）、須藤時一郎等と課りて共に學舎を設立、自ら其學を教授。五年大藏省總譯局出仕、七年紙幣寮に入り、鈔史編纂主任として『大日本貨幣史』全四十六卷参考七卷を完成。十五年文部省報告局勤務、『日本教育史資料』刊行に參與。十八年非職。詩文を能くし、殊に漢文の評價を得た。また親交のあつた初代中央氣象臺長荒井郁之助のため氣象學關係の共書を反譯、その手記成つた新譯詩の題名から『ちりもるこいふ』。

譯著に、マルチン 韓 キルリアム 良著 『格物入門和訳』全六冊の内『火學文部』二冊（明治二年一月北門社藏版）、『物理訓蒙』（上篇・明治四年刊、下篇・六年刊）、『萬國道中記』（須藤時一郎共譯、上篇一・明治四年刊）、  
吉田竹里 遺文集』（昭和十七年二月）  
吉田大古 遺文集』（昭和十七年二月十五日本吉田俊男編刊）等。

